

2017年8月4日

ターボチャージャー部品における基本合意書締結についてのお知らせ

当社は、2017年8月1日、世界最大手のターボチャージャーメーカーであるボルグワーナー社を主要取引先とするMMT社とターボチャージャー部品供給における基本合意書（MOU：Memorandum of Understanding）を締結しました。

MMT社は韓国に6拠点の製造工場、米国シカゴ、ドイツフランクフルトに販売拠点を持ち、鍛造や鋳造等のターボ部品を精密仕上加工し、組立、評価を一貫して行うターボユニット製造販売会社です。

この度、当社PIM（パウダー・インジェクション・モールディング）工法によるノズルベーンをはじめ複数のパーツを、ボルグワーナー社を含む世界最大手ターボチャージャーメーカーに供給し、今後、大幅に拡大するターボ車市場において協業することで合意致しました。

ノズルベーンはPIM工法での製造が高精度化や形状自由度でファインランキングや精密鋳造法に比べ有利とされていますが、従来のPIMメーカーでの品質、供給体制が不十分であり、当社PIM技術とMMT社アッセンブリ技術での協業により、世界最大手のターボチャージャーメーカーへのサプライチェーンを構築して参ります。

また、次世代ガソリンターボは従来のウェイトゲートバルブに代わり、シビアな制御が可能な可変ノズルベーン（VG：Variable Geometry）機構になると予測され、燃費改善やドライバビリティ向上に期待が持たれています。ディーゼルエンジンに比べ、高温化にさらされるガソリンエンジンの場合、新たな素材の採用が必須となる中で当社PIM工法での優位性を生かし、将来展開も視野に入れた協業であると考えております。

以上



写真：ノズルベーン